

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600142		
法人名	社会福祉法人 新生会		
事業所名	リハビリセンター白鳥 グループホーム		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町白鳥386番地		
自己評価作成日	平成25年 1月 10日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192600142-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成25年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちのケアや、パワーリハビリを活用しながら自立支援を促し、利用者の出来る力を奪わない介護を行なっている。利用者の自己選択、自己決定を出来る限り尊重、傾聴しケアを行なっている。また、併設するカフェに足を運び、他利用者や地域の方々と関わる機会がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内には地域密着型特別養護老人ホームと通所サービス、カフェが併設されている。法人として、地域における事業所の役割を認識し、利用者が地域の中で生活を送ることができるように努めている。開設にあたり職員と理念を作り毎日の目標を一つ決め、職員全員で目標に沿ったケアを提供するように心掛けている。身体拘束、ターミナルケア、ケアプランなどのマニュアル・指針も整備され、家族をはじめ利用者に対しても説明し、同意を得て、安心して生活することができるように取り組んでいる。年2回個別面談・月1回全体のミーティング・週1回のミーティングや管理職等が声を掛けてのランチョンミーティングなど日常的なコミュニケーションを率先して行い、職員の意見を尊重しながら、考えや取り組みを修正する等、職員の尊厳も含め個々の力を伸ばすことを大切に考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者の助言のもと職員一人一人が理念を理解し援助にあたっている。併設のカフェは地域の方など一般の方も自由に利用できるため、カフェに足を運びながら地域とのつながりを持てるように職員が意識しケアを行なっている。	法人の理念から職員が話し合って事業所の理念を作成した。利用者、家族に対しても理念を説明している。理念の中から一日の目標を決め、お互いに声を掛け合いながら実践できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設が企画するレクリエーションや行事等に積極的に参加し、地域の方との交流を図っている。また季節に合わせた外出や外食等にも出かけ、社会とのつながりも維持している。	併設されたカフェ、トレーニング場があり、利用者も利用して、以前からの知り合いの方と交流している。区長は運営推進会議や事業所の取り組みを手作りの広報で回覧するなど地域活性化に繋がるように協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の専門学校やその他実習生を積極的に受け入れ、認知症ケアの理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、運営推進会議を開催しており、ご利用者やご家族の意見や感想、役場や地域の方からも施設向上に向けての意見を頂いている。その意見をもとにさらに施設サービスの向上にあたっている。	利用者の代表も参加し、事業所の報告や暮らしについて話している。地域の代表者より「何でも言って欲しい」と言葉を掛けられた。併設の事業所と合同のため、単独での意見を聞く機会が設けられていない。	家族や利用者事業所単独で話し合う時間を作ることで、少しでも利用者や家族の方が意見を言いやすく、事業所の具体的な課題を話し合うことができるような工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村職員から施設の見学等の依頼があり、積極的に受け入れ施設の運営に協力して頂いている。	管理者は、事業所の特色を伝えながら、今後の福祉、地域の活性化につながるよう行政と意見交換を行っている。行政より地域の課題について意見を求められたり、包括支援センターに相談に行ったりして関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束について新人研修等で学び助言を受けている。施錠は夜間のみとし、利用者は自由に出入りが可能となっている。ベッド柵においてもマニュアルがあり、使用本数や用途を本人や家族と話し合い、同意を頂いている。また緊急時の対応についても説明させて頂いている。	全職員にマニュアル、身体拘束廃止に関する指針をもとに定期的に勉強会を開催し、拘束をしないケアの理解を深めている。新人研修会では、実際に寝たきりになった状態での身体的 精神的な苦痛を理解する体験も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入社の段階で研修を受けており援助にあたっている。外部評価委員の方の随時の訪問で評価を受け、苦情や意見に対して改善を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	階層別に助言を受け知識を得ている。現在、権利擁護等の制度を利用しているご利用者はいないが、随時対応が必要と思われる際は、さらに勉強会等を開き、理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて行ない、契約書を本人・家族と一緒に読みながら不明な点は随時質問して頂きながら納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や訪問時に何気ない会話から要望、意見を汲みとり、それらを生活支援に活かせるよう心がけている。またご意見箱を設置し、気軽に意見を出しやすい工夫を行なっている。	家族の面会時、職員から話しかけている。ケアの方法や化粧の要望があり見直しを行った。法人独自で設置しているサービス評価員に、電話や匿名で意見や要望を伝えることができることを説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見や提案を聞く機会を設けてもらえ、話しやすい環境が出来ている。また目標面接や振り返り面接の定期開催や随時の面談、ランチョンの機会等を設けてもらっている。	月1回全体会議、週1回のミーティングで職員からの意見や提案を聞いている。また、年2回個別面談を行い、異動も含めて要望を聞いている。管理者やリーダーから声をかけ、現場での困り事などを聞く機会も作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートを年度末に記入し要望や希望を出す事が出来る。その要望等に応じて面接を受け、働く条件や希望を整える事が出来る。また年度末特別表彰、事例の第1、2、3席等、チーム力を高める試みの推進も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後に研修を受けて現場に配属される。法人内には各種委員会があり誰でも参加が可能である。職員勉強会等、外部講師を招いての勉強会も行なっている。また市や県からの研修や勉強会の案内も掲示されており積極的に参加出来る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、法人内のグループホームの職員が集まり、情報交換する機会がある。お互いの施設の見学等も行っておりアドバイスや指摘等を受けている。今後は他事業所のグループホームへの研修等も企画していきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅での事前訪問等で本人の全体像を把握し、初期の不安や混乱等に適切に対応出来るよう情報を把握し観察を行い、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活する環境が変わる事による本人の不安や、家族の面会のタイミング、終末期までのサポートの可否等、家族が不安に感じていることを伝え、サービスを開始している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療にかかる事、主治医が変わる事、車椅子の自具、嚥下や咀嚼の生活課題など、入所時に本人、家族から不安の言葉があった際にケアマネジャー、医師や看護師の意見を参考にしてサービス・プランに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人のやりたい事や出来る事などの強みに着目し、共に暮らしているスタッフの悩みの相談や利用者の強みを活かした活動などを日常的に取り入れ信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や訪問時にご利用者とご家族の関係を見守り、有意義な時間を過ごして頂けるようにカフェなどへ移動して頂きながら過ごしやすい環境を整えている。日頃のご利用者の様子を伝えたり、家族への感謝の気持ちを伝え良い関係が続くよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会や、住み慣れた場所への外出などを行い、近所の方との交流も図っている。	情報を得て「強みのモデル(長所)」を作成し、馴染みの場所や人について把握している。地元の喫茶店に行ったり、馴染みの寿司屋に出掛けたりしている。喫茶店に出かけることで知り合いの方と出会うこともあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昔からの近所であったりと、顔馴染の利用者が多く、関係も良好。お互いがお互いを理解し支えあって暮らしている。また意見を出し合い、選択できるようにサポートしている。その反面、関係が近くなり過ぎ、息が詰まることのないように適度な距離感を保つよう、配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから法人内の特養へ移室された際に、利用者の生活状況等の情報を提供し利用者とその家族が不安なくスムーズにサービスを受ける事が出来るようにサポートした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時などに自宅にいた頃の様子を聞いたり、ケアプランの立案の際に家族にプランの説明を行い、どんな生活を送っていたかなど、希望や要望を聞き取り入れている。また、日常の言動から本人の思いを把握し迅速な対応に努めている。	日々の会話の中から思いや意向の把握に努めている。本人の言葉を記録し、職員間で共有して、その人らしい生活を送ることができるよう心掛けている。意思疎通が困難な方には、家族から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーや家族からの情報をもとに強みを活かしたケアプランを立て、環境が変わっても今までの生活と変わらないような生活が送れる様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、日課表を作成し、職員が統一したケアが出来る様にしている。日々の体調や心理の変化を常時申し送りや状態観察をし記録に残し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調変化時や介護計画の見直しの期間時に担当者会議を開き、課題やケアを検討している。必要に応じてDr、Ns、OT、ST、PTなどの専門職も参加し助言をもらいながら家族、本人の意見で作成している。	全職員が計画書の書き方を勉強し「どういう生活をしたいのか」を利用者から聞き、利用者が出来ること、介助が必要な所を職員間で話し合い介護計画を作成している。利用者も交えて、定期的に評価や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアはパソコンに入力し気づきや工夫は申し送りノートに記入し情報を共有している。また月一回の部署会議や隔週ごとのミニ会議にて検討事項を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族、事業所それぞれに役割と責任がある中、生活や要望を諦めてもらう、NOと言うのではなく、オプションサービスを提示しながら、要望等を叶える提案をしている。オプションメニューにない要望は都度、個別に検討し、提案をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーに買い物に出掛けたり、訪問の理美容を利用し地域の方の協力を頂いている。しかし、資源を活用した支援は現在行えていない。今後、一人一人がどんな生活を望み、それを充足する環境が何なのかを追及し支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族と話し合いをし、利用者全員がホームDrを利用している。その他整形外科をかかりつけ医として定期的に通っている利用者にも受診時の本人の体調報告をご家族に行い、医療機関との関係を密に結んでいる。	家族の協力を得て、全員がかかりつけ医を受診している。受診が出来ない時は、かかりつけ医が往診に来ることもある。受診内容や検査結果を家族に報告するなど情報を共有し、状態の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態は朝礼で申し送りをし、随時変化や訴えを看護師が確認している。医師の往診時は日頃の様子を看護師や介護職員が申し送り、アドバイス等対応を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を渡し、よりスムーズな医療が受けられる様対応している。また入院中は看護師や介護職員が訪問し様子を伺ったり、家族と回復状況等の情報を交換しながら速やかな退院支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「その時」に慌てる事がないよう、契約書に事前指定書への記入を依頼し、終末期について考える機会を設けている。重度化の際や終末期には、この事前指定書を基にカンファレンスを行い、今後の支援について考えていく。また看取り介護を実施していく為の勉強会を部門全体でも実施している。	入居前に「最期まで人として生きることを支える」に基づき説明し、利用者、家族の意向を聞いている。勉強会を開催し、状態の変化に応じその都度確認していくこと、家族に対しても心を準備するお手伝いなど、方針に基づく書類や体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当での勉強会を実施し緊急時の対応や夜勤時の緊急対応についてマニュアルを作成し全職員が周知している。そして、介護職員の医療行為に関する研修会には全職員が参加している。誤嚥、窒息時の対応等も消防署、看護師の指導の下で実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回利用者、家族、職員、消防署員と一緒に防災訓練を実施している。また全職員が施設内の消火器のや火災報知器の数や場所、避難経路を確認、把握している。	併設の施設と合同で年2回防災訓練を行っている。夜間想定を夕方に実施したり、訓練後消火器の位置、通報手順方法を確認したり、家族にも参加を呼び掛けたりしている。備蓄も用意し災害に備えた準備をしている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ご本人の前でご本人の話をしません」「利用者さんの出来る力を奪いません」(白鳥10ヶ条) 排泄時の声掛けは耳元で話しかけたりと、他者の前で本人を傷つけない様にさりげない声掛けや誘導を行い、一人一人の人権を大切にに対応している。	一人ひとりの尊厳を大切にし、排泄介助の声掛けや利用者の前では利用者の話をしないなど気を付けている。トイレや居室は中から鍵を掛けることができ、利用者のプライバシーが守れるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人ひとりの力に合わせて声掛けを行ない、本人が選びやすいような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりの体調を確認し配慮しながらその日その時の本人の気分に対応し本人のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や履物の汚れ等、整容の乱れに配慮し身だしなみに気を付けている。また本人のこだわっているスタイルを維持し化粧やネイル、帽子などその人らしさを保てるようなサポートをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物や食事の準備、片付けを行い、職員と利用者が同じ食卓を囲み楽しく食事が出来る様雰囲気作りを大切にしている。また畑で野菜作りをし、出来るだけ旬の食材を取り入れ季節を感じてもらっている。	利用者と一緒に食材を買いに出掛けている。簡単な調理や片付けを一緒に行っている。畑で収穫した季節の野菜を献立に取り入れ、職員と利用者が食卓を囲み、利用者同士声を掛け合いながら和気あいあいとした雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事、水分摂取量を把握し体重の増減を観察しながら食生活を支援している。また家族の協力を得て本人の飲みやすい物や好みの食べ物を持参して頂き、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、義歯洗浄やうがいを出来る限り本人で行なうように声掛けをし磨き残しなどがある場合、職員が介入し行なっている。また口腔内を観察し、異常等があれば、STに診てもらったり、歯科医師の往診などの対応も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを観察・アセスメントし介入が必要な利用者にはさりげなく声かけ、誘導しトイレで排泄できるよう支援している。	排泄のパターンを把握して、最期までトイレで排泄が出来るように誘導を行っている。リハビリパンツから布パンツが使用できるようになった方もある。夜間は本人の意向を確認して、トイレへの誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として起床時に牛乳や朝食時にヨーグルトの提供や白米に押し麦を混ぜるなどの工夫をしている。また日々運動する機会を設けたり、排便時には腹部マッサージを行い、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	顔馴染の利用者と一緒に入浴することで安心感を得たり、一番風呂を好まれる利用者には早めの声掛けをし個々に添った支援をしている。	基本として週2回が入浴日である。嫌がる時は、嫌がる原因を考え、気持ちを受け入れ対応している。温度や入浴時間など要望を聞いているが、併設している施設の職員が入浴や着脱の介助に係っている。	普段から顔馴染みでない職員が入浴介助を行うことは、利用者の気持ちを考えると羞恥心や不安感があると思う。少しでも安心して楽しく入浴できるように再度検討することを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。また個々の体調や表情、希望等を考慮してベッドやソファでの休養を取りいれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をもとに把握し支援している。服薬時は記名ときちんと服薬できたかを確認し服薬忘れ等がないか職員間で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の強みを活かし、出来る事ややりたいことの支援をしている。気分転換にレクリエーション等に参加し他部署の利用者との交流を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に数回利用者全員での外出等の計画を立て実施しているが、一人一人に合わせた外出は行なえていない。外出を希望される際はまず家族にその旨を伝え、家族に同行を依頼している。	戸外への散歩を日課として気分転換を図っている。また、一人ひとりの要望や思いに添うことが出来るように家族へも協力を依頼している。馴染みの店へ外食に出かけ懐かしい時間を過ごしている。同敷地内のカフェには、自由に行くことができる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元に自由に使えるお金がないことにより不安のある利用者に対しては家族に説明・依頼し利用者本人で管理し持つことで安心に繋がる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が携帯電話を持っており、常に家族とのつながりを保てるようになっている。また電話の希望があればいつでも利用できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、共有スペースなどに季節の花や飾り物、置き物などで季節感や安心感が得られる様工夫している。蛍光灯はダウン灯を使用し落ち着いた雰囲気作りに努めている。	玄関や廊下には季節を味わうことができるように季節の花や飾り物を飾っている。空調の効きが悪いと後付で扉を付けるなど少しでも快適に生活できるように努めている。洗面所にお化粧品が置いてあり、生活感を醸し出していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	のどかな田園を眺め、一人ひとりがゆっくり寛げるように空間作りをしている。またデイルームやカフェなどの共有空間も活用し居場所の提供を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力を得ながら、使い慣れた家具や寝具、思い出のある物を持ち込み、本人が安心して生活できる空間作りを行なっている。	利用者の使い慣れた家具や身の回りの物を持ってきてもらうように説明している。仏壇や小物を置いたり、洋裁や和裁を行っていた方は、昔作った作品を飾ったり、利用者の好みの居室となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の自走や歩行時に通りにくい場所を利用者と一緒に話し合い安全な環境作りに努め、出来る限り自立した生活が送れる様に支援している。		